

2021年4月28日
トヨタ紡織株式会社

2020年度 期末決算説明会 質疑応答要旨

**Q 1 : 第 4 四半期の 3 ヶ月間で見ると、第 3 四半期時点の見通しと比べ、営業利益が
上振れしている。特に日本地域が上振れしている為、理由を教えてください。**

A 1 : 第 4 四半期の 3 ヶ月間について、第 3 四半期時点の連結営業利益見通し 132 億円に
対し、実績が 234 億円となった要因は、①主に日本・アジアにおける高収益車種の増加、
型費や増産コストの回収といった営業努力によるもの ②労務費などの更なる効率化
③3Q 公表時に織り込んでいたリスクの未実現が営業利益に寄与した為。

Q 2 : 高収益車種の増加、型費や増産コストの回収による一過性の利益影響額はどれくらいか。

A 2 : 高収益車種の増加、型費や増産コストの回収などによる利益は 50 億円程度。

Q 3 : 2021 年度の見通しには半導体不足の影響をどれくらい織り込んでいるか。

A 3 : 現時点では半導体不足や材料供給問題による具体的な減産影響の情報はないが、
中国やアジアのリスクとして材料の値上げ要請がサプライヤーより来ている為、それは
一定程度織り込んでいる。

**Q 4 : 価格協力、諸経費等は 2020 年度に緊急対応していたものを戻す部分があると思うが、
2021 年度の見通しについて考え方を教えてください。**

A 4 : 価格協力については各地域で通常レベルの要請を見込んでいる。諸経費については、2020 年度
に緊急対応として展示会出展の中止、出張旅費の抑制を行ってきたが、その戻り分として 80 億円。
先行開発や成長投資関連で 35 億円。減価償却や生産準備費用の増加で 35 億円程度を見
込んでいる。

Q 5 : 米州地域において大型車種の受注をする計画はあるか

A 5 : ビジネスチャンスがあれば積極的に受注していきたい。

**Q 6 : 第 3 四半期時点の公表と比較して、第 4 四半期は SUV・MPV の比率が下がり、コンパクトの
比率が上がっているが、構成差が 50 億円の増加となっている理由を教えてください。**

A 6 : 構成差の 50 億円増加要因として、日本・アジアにおいて SUV、IMV といった高収益車種の台数
が増加したことに加え、型費や増産コストの回収といった営業努力によるものがある。

Q7：2025 年中期経営計画の利益目標の達成に向けて、今後立ち上がる新製品の効果は着実に取り込めるようになったのか。また成長投資を前倒しで行うような計画があるのか。考え方を教えて欲しい。

A7：昨年 11 月に 2025 年中期経営計画を発表し、その目標値として売上収益 1 兆 6000 億円、営業利益 1000 億円+a、営業利益率 6%~7%を掲げている。2021 年度は利益見通しを過去最高益の水準となる 720 億円としている。原価企画活動の推進、立上げロスの最小化などにより新製品効果を確実に取り込み、利益を確保していきたい。また、将来に向けた投資も検討していきたい。そのために新たなビジネス創造の提案部署としてビジネスインキュベーション室を新設した。

Q8：日本地域は収益性が大きく改善しているが、今後も同水準の利益を継続できるのか。

A8：日本地域は 2021 年度の見通しにおいて、36 万台の増産影響に加え、21 年に予定しているモデルチェンジ車種や新規立上げ車種の限界利益向上、合理化により、増収増益の見込み。固定費の効率化も 20 年度から引き続き、継続することでさらに収益向上を図っていきたいと考えている。

Q9：豊田合成会長の宮崎氏を取締役副会長に招聘する狙い、目的を教えてください

A9：トヨタ自動車においての専務、豊田合成において取締役社長、取締役会長など、これまでの実績、経験を踏まえ、適材適所の観点から、総合的に検討した結果、取締役副会長としてご活躍いただけると考えている。

以上